

東北地方太平洋沖地震対応臨時委員会からの地震学への提言（総括） Suggestions for the future of seismology from the temporary committee (summary)

鷲谷 威^{1*}
SAGIYA, Takeshi^{1*}

¹ 名古屋大学減災連携研究センター
¹Disaster Mitigation Research Center, Nagoya University

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震とそれに伴う津波は、1923年の関東大震災以来となる甚大な被害をもたらした。この事態を受け、日本地震学会には臨時対応委員会が設置され、この地震に関する学会としての対応を検討するとともに、日本の地震学の研究上の問題点、社会との関わり方、災害科学としての地震学のあり方等に関する議論を行ってきた。さらに会員からの意見論文を募り、2012年3月に論文集を発行する予定である。本講演では、この特別セッションの導入として、上記委員会の活動について紹介し、委員会における議論をまとめた提言を提示する。さらに、地震学のケースを例として、地球惑星科学と社会との関わりについて、会場に対して議論を提起する。

キーワード: 地震学, 東北地方太平洋沖地震, 防災, 社会, アウトリーチ
Keywords: seismology, Tohoku-oki earthquake, disaster mitigation, society, outreach